

ダニエル書 - 第九十五番

第二の天使のメッセージの預言的意義の解明

Jeff Pippenger

2024-02-28

第一の天使と第三の天使の運動の歴史において、そのメッセージは第二の天使のメッセージとして要約される。

また、別の天使が続いて来て、こう言った。「大いなる都バビロンは倒れた、倒れた。彼女はその不品行による怒りのぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませたからである。」黙示録 14:8.

第二の天使は、見ようとする人々のために、預言の三重の適用を明らかにしている。第二の天使は預言的なメッセージを掲げており、そのメッセージは、バビロンが二度倒れたということである。それは、バビロンを「あの『大いなる都』」として特定しており、その「大いなる都」は十七章と十八章で現代のバビロンとして示されている。現代のバビロンは二度倒れ、その倒壊は、彼女がすべての国々に「彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲ませた」ために生じた。彼女の淫行は地の王たちと共に行われた。その関係によって、彼女は淫行を犯した王たちの力を用いて自らの「怒り」を遂行することができた。この「怒り」とは、神に忠実な民に加える迫害のことである。

ぶどう酒とは教義のことであり、彼女がすべての国々に飲ませる教義は、太陽を礼拝すれば平和がもたらされると主張する偽りの教義である。すべての国々は、日曜日の礼拝によって表される太陽礼拝という彼女の権威の「印」を受け入れる。すべての国々によるその「印」の受け入れは、アメリカ合衆国の力によってもたらされるが、それは、イスラムの第三の「災い」によって地球にもたらされる戦争が激化している時期に行われる。すべての国々は、「平和と安全」という約束に基づいて、彼女の怒りの「ぶどう酒」を受け入れる。

「いま、私がニューヨークは津波によって一掃されると宣言した、という話が出ていますか。私はそのようなことは一度も言っていません。そこに次々と階を重ねて建ち上がっていく巨大な建物を見ながら、私はこう言いました。『主が立ち上がり、この地を激しく揺り動かされる時、どれほど恐ろしい光景が起こることだろう！そのとき、黙示録18章1節から3節の言葉が成就するだろう。』黙示録第18章全体は、この地上に臨もうとしている事柄への警告です。しかし、ニューヨークに何が起ころうとしているかについて、私には特別な光は与えられていません。ただ、いつの日か、そこでそびえる大建造物が、神の力によってひっくり返され、打ち倒されることは知っています。私に与えられた光によって、私は世に破壊があることを知っています。主の一言、全能の力のひと触れによって、これらの巨大な建造物は倒れるのです。私たちの想像を絶するほどの恐ろしい光景が起こるでしょう。」 Review and Herald, 1906年7月5日.

第二の天使たちのメッセージは、2001年9月11日、ニューヨーク市の巨大な建物が神の御手のひと触れによって倒されたときに、繰り返された。

預言者は言う。「私はもう一人の天使が天から降りてくるのを見た。大いなる權威を携え、その栄光によって地は照らされた。そして彼は力強い大声で叫んだ、『大バビロンは倒れた、倒れた。悪霊の住みかとなった』」（黙示録 18:1, 2）。これは第二の天使によって与えられたのと同じメッセージである。バビロンが倒れたのは、「彼女がその淫行の怒りのぶどう酒をすべての国々に飲ませたからである」（黙示録 14:8）。そのぶどう酒とは何か——彼女の偽りの教義である。彼女は第四戒の安息日の代わりに偽りの安息日を世に与え、また、エデンでサタンが最初にエバに語った虚偽——魂の自然不死——を繰り返してきた。これに類する多くの誤りを彼女は広く広め、「人間の命令を教義として教えている」（マタイ 15:9）。

イエスが公の宣教を始められたとき、神殿を冒瀆による汚れから清められた。宣教の働きの最後の行為の一つは、神殿の二度目の清めであった。同様に、世に警告を与える最後の働きにおいて、教会に対して二つの明確な呼びかけがなされる。第二の天使のメッセージはこうである。「倒れた、倒れた、大いなる都バビロンは、彼女はその姦淫の怒りのぶどう酒を諸国の民に飲ませたからである」（ヨハネの黙示録14章8節）。そして第三の天使のメッセージの大いなる叫びの中で、天からこう言う声が聞こえる。「わたしの民よ、彼女から出て来なさい。彼女の罪にあずからず、その災いを受けないために、彼女の罪は天にまで達し、神は彼女の不義を覚えておられるからである」（黙示録18章4、5節）。『セレクトッド・メッセージズ』第2巻、118頁。

2001年9月11日から、アメリカ合衆国で間もなく制定される日曜令に至るまでの間に、黙示録18章の最初の三節が成就する。というのも、バビロンから出よとの呼びかけは、日曜令の時点で始まるからである。

ヨハネの黙示録18章は、ヨハネの黙示録14章6～12節の三重の警告を拒んだ結果、教会が第二の天使によって予告された状態に完全に至り、なおバビロンの中にいる神の民がその交わりから離れるようにと召し出される時を指し示している。このメッセージは世界に与えられる最後のものであり、必ずその働きを成し遂げる。『真理を信じず、不義を喜んだ者たち』（テサロニケ人への第二の手紙2:12）が強い惑わしを受けて偽りを信じるままに任されるとき、真理の光はそれを受け入れるために心を開いているすべての者の上に輝き、なおバビロンに残っている主のすべての子らは、「彼女から出よ、わたしの民よ」（ヨハネの黙示録18:4）との呼びかけに従うであろう。『大争闘』389、390頁。

間もなく来る日曜法するとき、かつて契約を結んだ民は強い惑わしを受ける。2001年9月11日から、日曜法において強い惑わしが注がれる時まで、第二天使のメッセージは繰り返され、その拒否は「黙示録14章6節から12節にある三重の警告」の拒否を表している。この意味では、三天使は第二天使のメッセージによって代表されている。第二天使のメッセージは「バビロンは倒れた、倒れた」であり、第二天使のメッセージは第一と第三のメッセージの間に置かれている。

黙示録十八章における第一の声の宣言は、第二の天使のメッセージの繰り返しであるが、それは黙示録十四章の三人の天使のすべてを拒絶することを表している。第二の天使の

メッセージは三つすべてのメッセージを代表しており、アルファにしてオメガである方の刻印を帯びている。というのも、それは第一の天使の運動の歴史の中で宣べ伝えられ、そして第三の天使の運動において再び宣べ伝えられるからである。そのメッセージは、バビロンが二度倒れたことを明らかにしており、この預言的な意味において、それは「預言の三重適用」を指し示している。

バベルとバビロンにおいて示されたバビロンの最初の二度の崩壊は、現代のバビロンの最終的な崩壊を表している。バビロンの崩壊が二重に宣言されることは、三天使の第一のメッセージと最後のメッセージによって両端を挟まれている。三天使の構造はアルファとオメガのしるしを帯びている。というのも、第一のメッセージは「永遠の福音」と特定されており、それは定義上、永遠の福音、すなわちすべての時代において同一の福音のメッセージであることを意味するからである。第三の天使のメッセージは、獣の刻印を受けることに警告する福音のメッセージである。したがって、最初と最後のメッセージである第一と第三のメッセージは同じメッセージである。なぜなら、どちらも福音だからである。

アルファとオメガは、三つのメッセージに「真理」というご自身の署名を記した。というのも、「真理」と訳されるヘブライ語は、ヘブライ語アルファベットの第一文字、十三番目の文字、そして最後の文字を組み合わせて、「驚くべき言語学者」によって作られたからである。「十三」は象徴として反逆を表しており、偽りの教理と淫行によって表されるバビロンの反逆が明らかにされるのは第二のメッセージにおいてである。すでに述べたように、第二のメッセージにもまたアルファとオメガの署名が含まれている。なぜなら、裁きの開始を告げるためにミラライト史において宣べ伝えられたそのメッセージが、裁きの終結を明らかにするために第三の天使の運動において繰り返されるからである。

創世記11章におけるバベルの崩壊は、バビロンの滅亡への最初の言及であり、ニムロドの横暴な反逆の証しは、第一の天使のメッセージのしるしを帯びている。以前の記事で示したように、三天使の三つのメッセージは、第一の天使のメッセージの中にもまた見いだされる。第一の天使のメッセージにおいて、「神を畏れよ」という表現は第一のメッセージを、「彼に栄光を帰せよ」という表現は第二の天使のメッセージを表している。第三のメッセージは、第一のメッセージが「その裁きの時が来た」と告げるところに見いだされる。

バビロンの最初の没落であるニムロドの失墜において、三人の天使の三段階もまた示されている。それは「go to」という表現によって表されている。

全地は一つの言葉を用い、皆同じ話しぶりであった。彼らが東の方から移動するうちに、シナルの地に平野を見つけ、そこに住みついた。彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作り、よく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを用い、しっくい代わりにアスファルトを用いた。さらに言った。「さあ、私たちのために町と塔を建て、その頂が天に届くようにしよう。全地に散らされないように、私たちの名を立てよう。」主は、人の子らが建てているその町と塔をご覧になるために下って来られた。主は言われた。「見よ、民は一つで、皆一つの言葉を持っている。彼らはこうしたことをし始めた。今や、彼らがしようと企てることで、妨げられるものは何もないであろう。さあ、下って行って、そこで彼らの言葉を混乱させ、互いに言葉が通じないようにしよう。」

こうして主は彼らをそこから全地の表に散らされたので、彼らはその町を建てのをやめた。それゆえ、その名はバベルと呼ばれた。そこで主が全地の言葉を混乱させたからである。そこから主は彼らを全地の表に散らされた。創世記11:1-9。

バベルとして表されているバビロンの最初の陥落は、“go to”という語で三度表現されている。三人の天使はすべて第一の天使の中に表されている。ダニエル書一章もまた第一の天使のメッセージを表しており、これらの記事で以前に示したように、永遠の福音の三段階の試練の過程は、ダニエルがバビロンの食事を食べることを拒み、代わりに神に栄光を帰することを選んだ第一段階に見いだされる。彼の最初の試練は、ミラー派の歴史において1840年8月11日に小さな書物を携えて降りてきた第一の天使の試練であり、その書物はヨハネが食べるよう命じられたものであった。

その後、彼には十日間の見た目に関する試験が与えられ、バビロンの食事を摂った者たちと、ダニエルのように豆類を食べることを選んだ者たちとの違いが示された。第二の試験は、1844年に第二の天使が到来したときと同様に、人々を二つのグループに分けた。その第二の試験に続いて三年の終わりの試験があり、ここではネブカドネザルが自らの裁きを示した。これは、1844年10月22日に第三の天使が到来したことによって表されている。

洪水の後、ノアは祭壇を築くように指示され、その際、用いる石を決して切ったり削ったりしてはならず、祭壇にモルタルを用いてはならなかった。反逆者ニムロデは、れんがとモルタルを用い、地を再び満たした者たちに用いるよう指示されていた契約関係に基づく祭壇を模造した。ニムロデの証しにおける第一の「go to」は、最初のメッセージに反逆して結ばれた「死の契約」を表している。第二の「go to」は、塔（教会）と都市（国家）の建設を表している。ニムロデの証しにおける第二の「go to」は、教会と国家の結合であり、これは第二の天使のメッセージの淫行である。第三の「go to」は、人々を散らし、言語を混乱させるという裁きを表していた。

バビロンの最初の陥落は第一の天使の使命を象徴し、現代バビロンの陥落の諸要素を確立する二つの現れとして示されるバビロンの第二の陥落は、第二の天使の使命を象徴している。これは、ダニエル書に記録されたバビロンの陥落が始まりと終わりを表しており、ちょうどアドベンチズムの始まりと終わりに宣べ伝えられる第二の天使の使命も同様だからである。ホワイト夫人は、ベルシャザルに下された裁きが、ネブカドネザルに下された裁きによって予表されていたことを明確に指摘した。

「バビロンの最後の支配者にも、その最初の支配者に対する予型と同じく、神なる見張る者の宣告が臨んだ。『王よ、……あなたに告げられる。王国はあなたから去った。』ダニエル4:31。」『国と指導者』533頁。

バビロンの第二の没落は、アルファとオメガの印を帯びており、第二の天使のメッセージも同様である。その印は、バビロンの最初と最後の王の没落によって表されている。ネブカドネザルの裁きと没落は「七つの時」として表されており、これはレビ記二十六章の「七つの時」への言及である。また、ニムロドの裁きと没落における「離散」も、同様にレビ記二十六章の「七つの時」への言及である。ベルシャザルの裁きと没落は、合計すると二千五百二十となる火の文字によって表されており、これもまたレビ記二十六章の

「七つの時」への言及であることを示している。

「予言の三重適用」は、第三にして最終的な成就の特徴を識別し確定する最初の二つの証左によって確立される。バビロンの三度の陥落において、バビロンの陥落を識別するそのメッセージ自体が、予言の三重適用が拠って立つ原則もまた明らかにする。バビロンの最初の二度の陥落が、第三にして最終的な陥落の予言的特徴を明らかにする。

ミラー派の歴史は、Future for America の歴史において、寸分違わず繰り返されている。ミラー派の歴史において、ウィリアム・ミラーが身につけ、第一の天使のメッセージを提示するために用いた真理の枠組みを確立するための規則の集成は、その歴史の道標であった。「預言の三重適用」は、第三の天使のメッセージが特定される真理の枠組みを確立するために、この終わりの時代に編纂された規則の一つである。

ローマの三つの現れと、バビロンの没落の三つの現れは、密接に関連しているが、相違点もある。地の王たちと淫行を行うツロの淫婦、すなわちバビロンは、彼らと一体である。しかし、イゼベルがアハブ王を支配したように、彼女はその王たちをも支配している。現代のローマは、現代バビロンの淫婦が乗って支配している、ヨハネの黙示録17章の獣である。

次回の記事でこの研究を続けます。

そのとき、私の目は栄光から離され、地にいる残りの者たちに向けられた。天使は彼らに言った、「あなたがたは最後の七つの災いを免れたいのか。あなたがたは栄光に入り、神を愛し、そのために苦しむことをいとわない者たちのために神が備えられたすべてを享受したいのか。もしそうなら、生きるために死ななければならない。備えよ、備えよ、備えよ。あなたがたは今ある備え以上の備えをしなければならない。主の日が来る。それは憤りと激しい怒りを伴う残酷な日で、地を荒廃させ、その中の罪人を滅ぼすためである。すべてを神にささげなさい。自分自身も、財産も、何もかもを、生けるいけにえとして、神の祭壇にささげなさい。栄光に入るにはそのすべてが必要となる。盗人が近づかず、さびが損なうこともない天に、あなたがた自身のために宝を蓄えなさい。やがて彼とともにその栄光にあずかりたいのなら、ここでキリストの苦しみにあずからなければならない。」

苦しみを通して手に入れるのなら、天国は十分に安いものだ。私たちは、歩む間じゅう自己を否み、日々自己に死に、ただイエスだけが現れるようにし、その栄光を絶えず見据えていなければならない。私は、最近になって真理を受け入れた人々は、キリストのために苦しむとは何であるかを知らなければならないこと、すなわち、鋭く身を切るような試練を通らなければならないことを見た。それは、彼らが苦しみを通してきよめられ、生ける神の印を受けるにふさわしい者とされ、艱難の時を通り抜け、その麗しさのうちにおられる王を仰ぎ見、神と清く聖なる天使たちの御前に住むためである。

私たちが栄光を嗣業として受けるためにどのような者でなければならないかを見、さらに、私たちにこれほど豊かな嗣業を得させるためにイエスがどれほど苦しまれたかを見たとき、私は、私たちがキリストの苦難にあずかるバプテスマを受け、試練にたじろがず、忍耐と喜びをもってそれらに耐えることができるように祈った。イエスが

、私たちがその貧しさと苦難によって富む者とされるためにどれほど苦しまれたかを知っているからである。御使いは言った。「自己を捨てなさい。あなたがたはすみやかに歩みを進めなければならない。」私たちの中には、真理を受け入れて一步一步前進するための時間が与えられ、踏み出すすべての一歩が次の一歩を踏み出す力を与えてくれた者たちがいる。しかし今や時はほとんど尽きようとしており、私たちが何年もかけて学んできたことを、彼らは数か月で学ばなければならない。彼らはまた、多くを捨て、多くを学び直さなければならない。布告が発せられるときに獣とその像の刻印を受けない者であろうとする者は、今、はっきりと決断してこう言わなければならない。「いや、私たちは獣の制度を顧みない。」『Early Writings』67頁